

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：下保 修

事業名 地域高規格道路 一般国道165号 <small>やまとたかだ</small> 大和高田バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 近畿地方整備局
起終点 自：奈良県香芝市穴虫 至：奈良県橿原市四条町	延長 14.4km	
事業概要 大和高田バイパスは、地域高規格道路である南阪奈道路の一部を構成し、奈良中南部と大阪経済圏の連結の強化や関西国際空港へのアクセスの強化を図ると共に、現道165号沿線地域における交通混雑の緩和、交通安全の確保に加え、地域連携の強化による地域の活性化を目的に計画した道路である。		
S43年度事業化	S47年度都市計画決定 (S61年度変更)	S47年度用地着手
全体事業費 約930億円		事業進捗率 88%
計画交通量 40,100台/日		供用済延長 12.1km
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 4.1 (残事業) 3.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 91 / 1,779億円 (事業費：83/1,685億円 維持管理費：8/93億円)
総便益 (残事業)/(事業全体) 288/7,222億円 (走行時間短縮便益：266/6,841億円 走行費用減少便益：17/311億円 交通事故減少便益：6/71億円)		基準年 平成19年
感度分析の結果 残事業を対象に感度分析を実施 交通量変動：B/C=4.0 (交通量+10%) B/C=2.6 (交通量-10%) 事業費変動：B/C=2.8 (事業費+10%) B/C=3.4 (事業費-10%)		
事業の効果等 ・国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏中心都市へのアクセス向上が見込まれる） ・安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる） 他14項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 大和高田バイパスは、沿線自治体（大和高田市、香芝市、葛城市、御所市、広陵町）を主なメンバーとする奈良県葛城広域行政事務組合より、全線早期供用の要望を受けている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 これまでの整備により、広域交通の円滑化、現道165号の沿線環境の改善等が図られてきたが、沿線地域では近年も人口や自動車交通需要は増加しており、周辺道路では交通混雑が日常化している。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 事業進捗率、用地取得率ともに約9割完了しており、残事業区間を除く前後の区間は既に供用済みとなっている。残る区間については、引き続き、残用地の取得、埋蔵文化財調査等を進める。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 地元調整、用地取得に時間を要している。残る区間については、今後も引き続き、関係自治体と意見交換を行いながら、平成20年代半ば頃の供用を目指し、早期に事業効果が発現できるよう事業を推進する。		
施設の構造や工法の変更等 平面・盛土構造を基本とするが、今後さらに調査・設計を進め、新技術・新工法の積極的な活用などによりコスト縮減等に努める。		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 沿線地域の交通安全確保、暮らしの安心確保、地域経済活性化等を図る路線として必要かつ重要である。		
事業概要図		



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。